

演者は横膈膜痙攣に就きて概論し、數日間持續せる本症患者に硫酸「アトロピン」を注射して偉功を奏せる一例を報告せり。(自抄)

第四席 蛔蟲に因する胃痙攣發作に就いて

二川元次郎君

演者は胃痙攣發作の屢々蛔蟲に因する事あるを述べ、最近自ら經驗せる一例に就き此が詳細を報告せり。(自抄)

第五席 東京見聞談

中山二郎君

演者は過日上京せし際、傳研・北研・巢鴨・駒込兩病院、杏雲・順天兩堂を參觀せしを以て、此が見聞談を述べたり。(二川抄)

第六席 糞便中「エレブシン」の定量法に

就いて(抄讀)

井上秀男君

演者はポフマン氏の發表せる「エレブシン」定量法に就き此が概要を説述せり。

## 岡山醫學會彙報

### 岡山醫學會通常會

同會は本月二十五日午後三時十分より岡山醫學專門學校に於て開會す田中庶務主幹開會を報し直ちに左の演説に移る。

第一席 「アドレナリン」の運動末梢裝置に

對する作用に就て。

奥島貫一郎君

一、「アドレナリン」は少量にては、間接刺戟の際、刺戟闘を減少し、筋の收縮高を増加し、大量にては、却つて刺戟闘を増大し、收縮高を減少し、疲勞性を増進せしむ。而して中間の分量にては、何等認むべき影響なし。故に本物質は適當濃度を有する時に限り骨格筋の作業能力を増加すれども、夫より濃厚なる時は何等影響を及ぼさず、更に大量に至れば却つて筋機能を障礙するなり。

二、以上の作用は、直接に刺戟せられたる「クラーレ」

筋に於ては認むること能はざるを以て、是れ收縮性筋質に作用するに非ず、其攻撃點は運動神經の末端裝置に存す。

三、「アドレナリン」は一定濃度に達すれば運動神經末端の完全なる麻痺を起せども、筋は此濃度に於ても尙ほ直接刺戟に對して殆ど正常の反應を呈す。

四、斯く「クラレー」は「アドレナリン」の作用を消失せしめ、又「アドレナリン」は「クラレー」の麻痺作用を一定度迄抑制する作用あり。

五、「アドレナリン」が疲勞筋に對して恢復的影響を呈するは、先人所説の理由の他、此の運動神經末端の興奮性増進作用も與れるなるべく、又殊に人工的環流試験にありては、「アドレナリン」の血管收縮作用に基く循環杜絶が一時疲勞筋の收縮を増加せしむることを證明せり。

(自抄)

第二席 種々なる「アミン」及「アミノ」酸の

運動末梢裝置に對する作用。

奥島貫一郎君

「バラオキシフェニールエチルアミン」、「フェニールエ

チールアミン」、「ヒスタミン」の三種の「アミン」及「グリコル」、「アラニン」、「ロイチン」、「アスバラギン」、「グルタミン」酸、「フェニールアラニン」、「チロジン」、「ヒスチチン」の八種の「アミノ」酸の中性溶液に就て「アドレナリン」と同様の試験を行ひ其作用を比較せり。

(以上二論文は近々京都醫科大學紀要に登載の筈)

右終りて閉會したるは午後四時半なり。